

いのり☆フェスティバル2013

諸宗教で「ブリマ」東京

教会、企業、サークル、個人が集う「ブリママーケット」「いのり☆フェスティバル2013」が、9月14日、東京都新宿区の早稲田奉仕園スコットホールで行われた。

21の企業・団体、8個人が出展し、キリスト教グッズ等の販売、各種活動紹介のブースが並んだ。約300人が来場。社会学者の宮台真司氏と晴佐久昌英神父（東京教区）の対談等の企画もあった。主催は「いのフェス2013実行委員会」。

接点のない人にも

2011年に始まり、これまでに東京で2度、大阪で1度開催。今回、団体としては、日本聖書協会、キリス

ト教会葬儀研究所、同志社大学社会福祉学科、アルコール依存症者らによるグループ等が参加。個人の出展には、イラストレーター

の作品の展示・販売や、セラピストによるアロマオイルの紹介もあった。

カトリックからは、ドン・ボスコ社と聖パウロ女子修道会が書籍等の販売ブースを出展。初参加した同会担当者、教宗派を超えた出展者同士の交流も貴重だったと話す。

メディアを活用した宣教を研究・推進しているシグニスジャパン（カトリックメディア協議会）は、展示等での活動を紹介し、カトリックの青年たちと共同で、青年向けの要理書

『YOU CAT』（ユークキヤット／カトリック中央協議会発行）も販売した。

青年たちは、この催しを機に、気になった要理の項目について5人の信仰体験をつづつ



た冊子を作り、配布。杉野希都さん（26）は、今回、カトリックの青年活動を「対外的に紹介」できたことも良かったと話す。

宗派を超えてフリーペーパーを発行する、現代の仏教の在り方を模索する若手僧侶らも参加していた。

宮台氏と晴佐久神父による対談Ⅱ写真（山名敏郎）Ⅱでは、「救い」について学者と司

祭、それぞれの立場や経験から発言した。宮台氏は、「神の計画は、人間には知り得ない」ものだと述べ、宗教の枠を超えた救いの普遍性や、その捉え方についても論じ合った。

宮司、僧侶、牧師の息子3人のトークショーでは、「息子」としての悩みや恋愛など、身近な事柄についてもざつぱらんに語り、日本のムスリムの若者も飛び入り参加した。その他、牧師と僧侶によるバンドが競演する場面もあった。

実行委員会代表の松谷信司さん（季刊『Ministry（ミニストリー）』編集長）は、「催しのオープンな雰囲気や伝わるよう、会場選びや告知も工夫しており、回を重ねるごとに来場者、来場者とも少しずつ増えてきた。より若い層や、宗教と接点のない人たちにも広めていきたい」としている。